

第1回盛岡市学校給食懇話会 会議録

- 1 開 会
- 2 教育長挨拶 千葉教育長より挨拶
- 3 委員の紹介 名簿に従って委員及び教育委員会事務局の紹介
- 4 役員の選出 会長に「盛岡市学校給食研究会」の 山口会長が、副会長に「盛岡市PTA連合会」の佐藤康之会長が選出される。

以降、6の協議まで山口会長の進行により会議を進める。

報告に先立ち、会の公開・非公開について協議し、全会一致で非公開とすることとなる。

- 5 報 告 盛岡市学校給食懇話会について資料1及び2に基づき説明
- 6 協 議

(1) 学校給食の現状について

ア I 学校給食の現状について

事務局から資料に沿って説明 → 質問等なし。

イ II 中学校選択制給食方式（盛岡地域）について

事務局 白石主幹	資料に沿って説明
委員	ランチボックスについての経費が6ページにあるが、1食当たり410.4円というのは何か。
事務局 遠藤学校給食係長（以下遠藤係長）	こちらは下の表にある中学校費の経費を実際に提供した総食数で割った形で1食当たりの単価として算出しています。
委員	現在給食費は1食当たり300円か。
事務局 遠藤係長	300円は保護者に負担いただいている部分で296円分が食材費に、4円分が事務費等に使われている。それ以外に掛かった市が負担している経費です。
会長	保護者が負担しているのが300円であり、それ以外410.4円分を市が負担しているとのこと。
委員	割ったということは、食べた人・食べない人で食数が違うわけで、7ページの利用率はその食べた・食べない人の割合になるのか。
事務局 遠藤係長	実際に生徒が利用した割合となります。生徒一人一人の利用も数が違ってきます。
委員	食べた回数ということか。

事務局 遠藤係長	食べた回数とは若干ずれが生じています。
委員	7ページの数字は生徒さんが「1年間食べますよ」といった人の人数か。
事務局 遠藤係長	7ページにある年間調理食数というのが実際に注文を受け提供した数です。
委員	食べた数と割合というのは若干変わるということか。 利用率は生徒が1年間食べた食べないの大体の目安になるものか。 単独校では利用率は100%じゃないですか。知らない人が数字だけ見たらこれしか利用してないと思われると思うが、全生徒の3割しか食べてないという認識でよろしいか。
事務局 遠藤係長	生徒さんが申し込む回数は違うため、1人が何回使ったかというのを反映している数字ではなく、1回でも利用すれば利用者にカウントするといった数値になっています。 集計は月ごとで行っています。
事務局 大倉次長	中学校給食の喫食率等の関係については次回の中学校給食のところで、捉え方であるとか全体の食数といった細かい数字はお示したい。
会長	利用率の算出の仕方がどのようにされているか明らかになってくれば納得いただけるかと思います。
委員	同じく7ページの(6)について年々実施校が増えている中、利用率は下がっている状況か。他県のランチボックスで、例えばおいしくなくて5、6割残しているのをやっていたが、盛岡市でも問題となっているように聞きますがどうか。
事務局 遠藤係長	これについては毎年利用者アンケートを実施しており、その中にはランチボックスを選ばなかった理由としては味の問題、冷たさの問題というのがあります。後は家庭の事情として、御家族の中に既にお弁当を持参している人がいる場合、お弁当1つ作るのも2つ作るのも同じだというような理由で利用されていない方もいらっしゃる。様々な理由があると思われ、その中でどれが大きな要因となっているのかを特定するのは厳しいと想定されます。 また、選択制給食の中で大きく変わった部分としては、主食について2種類から選択できていたものを、一本化したというところも影響しているのかと思われます。
委員	質問ではないのですが、中学校のPTAとして、今年度から選択制給食方式でランチボックス導入ということだったんですが、業者が決まらないということで、引き続きお弁当持参というところですが、学校に確認したところ、今のところ保護者からランチボックスが始まらないことについての問い合わせは1件もないとのこと。これは私個人

	<p>の意見ではありますが、学校の周りにスーパーマーケットなどが多く、親御さんも食材の調達が苦にならないという土地柄もあってか、今のところ弁当を続けていることについて、学校に異議申し立てしている方はいないということは聞いてきた。</p> <p>実施校については、該当校のPTA委員から話があると思う。</p>
委員	<p>他の委員とも何回かお話しした中では、実施校の中でも生徒が持ってくるものがパンだけであるというのも話題に上がったものである。</p> <p>私の子供もランチボックス利用しているが、クラスを見てもさっきの数字（利用率）と合致するような形でクラスに40人いれば、利用率は12, 3人という、まさしく先程の数字と合致しているというのが実態のようである。</p> <p>先生方にも聞いてみたが、ランチボックスではなく自校式、センター式というのが導入された場合、学校側としても抵抗が強いというのを聞いてきた。カリキュラムの変更であるとか、現在の昼食時間がさらに伸びるとするのは、なかなか抵抗があるということも聞いてきた。</p>
会長	<p>情報提供ということで承りました。</p>
委員	<p>この話に絡めて質問ですが、中学校の中で給食を実施していない学校については、業間の15分で昼食をとると聞いているが、玉山都南地区では15分というのにはあり得ないと思うので、もっと長い時間取られていると思うが、そういったもののしわ寄せがどこに来ているのか。たとえば部活動の時間が短くなるのか、どうでしょうか。</p>
委員	<p>センターからの提供校では、昔の時代から給食って当たり前だったので何とも思わなかったが、現状については会長の山口さんが前々回巻堀小の校長先生でしたので、先生の方がわかるかと思う。</p>
会長	<p>小学校はセンター方式ですので給食時間は45分くらい時間を取っていた。中学校15分というのは配膳だけで終わってしまいそう。</p>
委員	<p>実際にランチボックスやっている学校は15分である。</p>
事務局 遠藤係長	<p>補足で説明ですが、中学校の場合は昼食時間とお昼休憩の時間がありまして、どこの学校さんもそれを合わせるとだいたい40分前後の時間を取っていただいている。参考までに私のほうで旧盛岡と旧都南玉山地区の学校を比較したところ、旧都南玉山地区のほうで5～15分ほど昼食時間とお昼休憩を合わせた時間が長くなっているのは間違いないようです。</p>
委員	<p>次回までに具体的に学校のカリキュラムなどがどうなっているかお示しいただけないか。</p>
事務局 遠藤係長	<p>次回の資料で準備する。</p>
会長	<p>時間あるいはカリキュラムにどのような変更・影響があるのかとい</p>

	ったところを次回の検討ではよろしくお願いします。
--	--------------------------

ウ III 単独調理場について

事務局 白石主幹	資料に沿って説明
委員	新しい家というのは最初新しいですが、年数がたつとまず屋根が錆びる。それと同じように施設も老朽化してくるものですが、そこについての対応について計画があるものか、それとも報告があった際にその都度直していくものなのか。メンテナンスの計画はどうなっているのか、どうやってきたのか。給食室の屋根がもう真茶色になっている。わかっているはずなのに、いつになったら直すのかと思うことがある。計画があるのか、穴が開いたら直すのか教えていただきたい。
事務局 遠藤係長	学校施設全体としての話になるが、その中で優先順位をつけつつ対応をしていくというのが現状である。校舎については中規模改造計画等があり、そちらの方で対応していると思われる。給食施設については、今検討している第二次学校給食施設設備実施計画のほうでどのような形で進めていくのかというのを具体的に定めていく予定である。現状としてはその都度対応を行っています。
委員	ということはこれまでは計画のようなものは存在しておらず、今回そういったところを検討し始めたということか。
事務局 遠藤係長	そのとおりです。給食施設の老朽化が進んできた中で、校舎とは別に考えていかなければならなくなっている。単独調理場という形で整備していくのか、集約化していくのか、様々な方法の中でどうやっていくのがいいのか検討しています。

エ IV 給食センターについて

事務局 白石主幹	資料に沿って説明
委員	資料の11ページの食物アレルギーへの対応のところ「都南給食センターでは調理におけるアレルギー対応は行っていない」とあるが、アレルギーを持つお子さんは何を食べているのか。
事務局 白石主幹	家庭からお弁当を持参いただいている。単独調理場についてもアレルギーの対応ができない場合、同じような対応です。
委員	都南学校給食センターでは121.6円（1食あたり経費）とずいぶん他と差があるが、何か理由はあるのか。
事務局 遠藤係長	施設自体が昔の設計になっており、調理作業と等する部屋等が分化されておらず、焼物も煮物も広いフロアでやっており、ある程度人の融通が利くということもあり、ある意味効率よく運営できているためではないかと考えます。

(2) アンケート調査の実施について

事務局から資料に沿って説明

事務局 白石主幹	資料に沿って説明
委員	アンケートの概要についてそれぞれに「中学校給食はどのような方法で実施したらよいか」とあるが、どのような質問をするのか。お弁当を持ってくるのとランチボックスかどっちがいいですかというような質問だと、ちょっと違うんじゃないかなと思われるが。
事務局 白石主幹	今のところ案としてですが、選択肢3つ設けており、「全員に同じ給食が提供される方式」、「家庭からの弁当か市からの給食を選べる選択制方式」、「その他（自由記載）」という形で考えています。
委員	例えば、小学校の時のような給食というような項目はないのか。
事務局 白石主幹	全員に同じ給食が提供される方式というのは、ある意味小学校と同じになると思います。今のところは全員が同じものを食べるのがいいのか、選択制がいいのかを皆さんにお聞きしたいと思っています。
委員	<p>なぜこの質問をしたかという点、栄養士さんもいるのでわかると思うが、食の大切さとか食の乱れというのがあるわけで、義務教育の中でそういう多感な時期に、小学生もそうですが、特に中学生は食べ物を粗末にしがちになる。できればですが、食育の観点からも、食べるのを業間にするというのはナンセンスな話であるので、食べる時は食べるとした方がいいと思う。そういったところも含めたアンケートにした方がいいと思うがどうか。</p> <p>学校によっては業間に食べなきゃならないというのはわかるが、それは変えていくべきだと思う。食べる時は食べる、遊ぶときは遊ぶ、休む時は休むときちゃんとやらないとだめだと思う。なので、お弁当がいいか給食がいいかというのではなく、ちゃんとお昼に食べられるような仕組みづくりをした方がいいと思う。それからの話だと思う。学校がどのくらい給食時間をとっているというのは分かっているのか。</p>
事務局 遠藤係長	確認したところでは、給食時間と昼休み時間とで明確に分けている学校とそうでない学校があるが、単純に業間というわけではなく、昼ごはんを食べる時間として取っているようです。
委員	昨年度学校給食センターでは一時的にご飯などの主食を家庭から持参していた時期もあったのですが、アンケートとは別ですけども、私自身が米を専門で作ってしまして、給食の時間をちゃんと作ろうというのもそうですし、生産者からすれば、栄養士さん調理員さん大変かもしれないですけども、やはり地場産品を使ってもらいたいというのを生産者は結構思っているんで、そういった意味でもアンケートの項目の中に、例えば「地場産品を積極的に取り入れてもらいたい」

	<p>とかあってもいいですし、地元のブランド米の本当のおいしさや味を小さい内から食べて知ってもらいたいと思う。そういったものも踏まえながらアンケート内容を実施したらと思う。</p>
事務局 遠藤係長	<p>今、御飯を学校に持ってきてというお話がありましたが、昨年度米飯の提供も行っていたパン事業者が倒産するということが起こり、代わりの事業者が見つからないという状況になってしまいました。都南センターについては代替の業者が見つかり、パン提供が再開されましたが、玉山センターにおいては、平成29年度中は主食の持参が継続していた状況があったものです。</p> <p>また、地場産品の活用についてですが、盛岡市の第三次食育推進計画の中でも学校給食で目標数値を掲げながら、市としても取り組んでいるところです。</p>
会長	<p>冒頭でもお話がありましたが、学校給食法第2条に掲げている7つの目標を達成していくことが大事なことなのであると思う。</p> <p>このアンケートのとり方について委員の皆様から御意見質問等ありましたらお願いします。</p>
委員	<p>ぜひ、聞きたいことですが、生徒へのアンケートでは小学校の時の給食は好きだったかというのはアンケートとってもいいと思うが、これの他に、ランチボックスについての感想というか、好きか嫌いかという聞き方になるかわからないですけども、ランチボックスについてどう思っているかと、家庭で作られているお弁当についてどう思うかというのを聞いていただきたいと思うが、可能か。</p>
事務局 遠藤係長	<p>今回のアンケートの他にも選択制給食は毎年利用者アンケートを実施している。その中でランチボックスを選んだ又は選ばなかった理由などを聞いているところです。お弁当についてそのような聞き方をしたものはなかったので、検討の余地はあると思うので、調整を図りながら進めていきたいと思えます。</p>
事務局 白石主幹	<p>今、話があったとおり、実施校を対象に利用者アンケートを毎年この時期に実施しており、今年も実施するが、今回のアンケートがあるので、実施時期がずれると思われれます。今年の利用者アンケートの結果を第2、3回にお出しできるかはわからないが、去年の結果等をお示しして状況について説明できればと思えます。</p> <p>今回のアンケートはできるだけシンプルな設問数を少なく応えやすいものにしたいと考えている。その方が率直な意見をもらいやすいと思えます。</p>
事務局 大倉次長	<p>補足いたしますが、今回のアンケートは第二次学校給食施設整備計画を策定するために、施設に着目した形でアンケートを取ることになります。食育であるとか学校教育の中で給食をこう扱うべきだという</p>

	給食全般についてとなると様々聞かなければならないことがあるが、懇話会を作っている経過というのは、中学校給食が行き詰っているところがあり、中学校の選択制給食をどうするかというのが1番のターゲットとなりますので、絞り込んだ形で考えているということになります。
会長	<p>今後の実施方法を検討するものであるということ、この狙いの部分だけでも委員の皆さんには理解していただけたらと思う。ここがずれてくると様々なアンケートが出てくるわけですので、今後の実施方法を検討するアンケートをしていただくということで、よろしいか。</p> <p>なお、集計の時には選択制給食を実施している学校と仙北、大宮、北陵中を別に結果を示していただけるのか。</p>
事務局 遠藤係長	その予定です。
委員	<p>弁当作りについての負担感についての設問ですが、お母さんからすると100%に近い割合で負担と感じていると返事がくると思う。</p> <p>料理が得意な人の中には弁当作りを楽しみにしている方もいると思うし、苦手になっている人は本当に大変だという話も聞く。負担感としてしまうと、お弁当が大変だから給食という切り替えになってしまうんじゃないかなと思う。もう少し聞き方を工夫してほしい。お弁当の良さというのもありますし、長年盛岡市ではお弁当でということで中学生はやってきたこともありますし、お弁当の良さであったり、中学生に必要な栄養を取るなら給食もありがたいなというようにニュアンスを変えていただければ、答える方もいいのではと思う。</p>
事務局 白石主幹	今回の資料での書き方が少し乱暴な書き方になってしまっていますが、聞き方としては「負担と感るので、できれば給食を利用したい。」「負担と感じるけれども、子供の要望があればお弁当を作りたい。」「負担は感じないが、給食があれば利用したい。」「負担は感じないし、お弁当も作りたい。」の4種類を考えているところですが、いかがでしょうか。
委員	いいと思う。

- 7 その他 会の公開・非公開について再度協議し、改めて全会一致で非公開とすることを確認。

次回の開催予定を10月18日と確認

- 8 閉会